

広がる81・3ジェット延長反対運動



80.12.10
No. 603

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆電話)三二七二〇七

千葉市地区労大で反対決議を採択

千葉市地区労第三回定期大会は過ぐる十一月二十九日、労働者福祉センターにおいて、地区労傘下十六単組、三十二分会、代議員百二〇名を結集して開催された。

大会は議長団に松枝(国労)、鈴木(全日通)両氏を選出した後、挨拶に立った伊藤地区労議長(全農林)は、「六月衆参ダブル選挙は敗北したが、80年代はより不安定な時代であり、政治の転換は可能だ。社会党を中心に県労連の方針に従い、地域活動をより強化発展させよう」との決意を表明した。

来賓として出席した県労連の清水事務局長からは、「自民党は安定多数獲得後、急速に反動化を強めている。課題は81春闘体制をどう構築するかであり、春闘共闘を確立し、制度・生活要求、物価問題を闘い、地域団体として対県・対市要求運動、未組織の組織化に努力する」との挨拶が行われた。

続いて一九七九年度の経過、決算報告、予算と活動方針案が、それぞれ白井事務局長(動労千葉幕張支部)、伊藤議長から提案され、討論の後、満場一致で採択された。

最後に、地区労に加盟する動労千葉幕張支部、蘇我支部、千葉運転区支部の全代議員11名による

「ジェット燃料貨車輸送延長とパイプライン建設に反対する決議」案が提出された。代表して主旨説明にたった桜沢代議員(千葉運転区支部)は、「ジェット燃料貨車輸送に反対する第一の理由は、四空整の基軸である三里塚空港二期工事強行と関西新空港建設は、侵略と反動、軍事大国化にむけた攻撃であり、われわれは農民や地域住民の犠牲のうえに成立つ三里塚空港そのものを認めない。

反対する第二の理由は、ジェット燃料それ自体が危険なうえに、市街地や過密線区の貨車輸送を強制している事、更には花見川の川底という軟弱な地盤にパイプラインを埋設している無謀性にある」と述べるとともに、「政府、空港公団は暫定貨車輸送期限である81・3までに、パイプラインの完成が不可能となるや、3年間という『閣議決定』をも反古にし、81・3以降もジェット燃料の貨車輸送を、国鉄労働者に強制せんとしている。11

・26ノ28動労千葉第四回定期大会は、81・3ジェット燃料貨車輸送延長に対し、組織の総力をあげて阻止する方針を確立した。本日の地区労大会において、是非とも決議文を採択し、闘いに決起することを訴える」との提起が行われ、全体の拍手で確認された。大会は役員を選出し、大会宣言を採択して成功裏に終了した。

総評も「ジェット延長反対闘争の全面的バックアップ」を決定

(12月8日、総評幹事会)

三里塚芝山連合空港反対同盟十五年の不屈の闘い、そしてわが動労千葉が心血をそそいで闘い続けてきた労働連帯ジェット闘争が、いよいよ八一年三月の燃料輸送延長攻撃と二期工事着工攻撃の強まりの中で、今や大きく地域住民・労組・地区労等の中にも決起の条件をよび起こしつつある。千葉県下のみならず全国の多くの労働組合から動労千葉への注目・交流・支持の動きが今急速に拡がっている。わが動労千葉が第四回定期大会で「かかってない強固なストライ

キ体制をもつて燃料輸送延長を阻止する」と決然たる宣言を発したことによってその動きは加速度的に拡大しつつある。社会党は先の千葉県大会での決議に続いて第四十五回定期全国大会で「成田空港二期工事阻止、ジェット燃料貨車輸送延長反対」を決議した。千葉

市地区労での決議に続き、他の地区労でのとりくみも前進している。国労は第一三〇回中央委員会で「燃料輸送延長に対し非協力闘争」で取りくむことを決定、更に十二月八日総評も燃料輸送延長反対で闘いの全面的バックアップの方針を幹事会で決定し発表した。

更に強固に、更に広汎に闘いの輪を拡げよう!

かの悪名高き「一線を画する」なる敵対方針をもって三里塚・ジェット闘争の破壊のみを目的に

動分子を今こそ全国全戦線から追放一掃し、八一年三月へむけ、更に強力に、更に広汎に闘いの輪を拡げていこう。